

15. 最近行われた選挙について

問15 最近行われた選挙についてお尋ねします。

[1] あなたは、今年8月に行われた長野県知事選で投票しましたか。一つ選んで○を付けてください。

		【旧佐久市】	%
1	投票した(期日前・不在者投票を含む)	659	83.5
2	投票しなかった	122	15.5
99	無回答	8	1.0
	合計	789	100.0

		【臼田・浅科・望月】	%
1	投票した(期日前・不在者投票を含む)	645	85.4
2	投票しなかった	101	13.4
99	無回答	9	1.2
	合計	755	100.0

[2] あなたは、今年7月に行われた参議院議員選挙で投票しましたか。一つ選んで○を付けてください。

		【旧佐久市】	%
1	投票した(期日前・不在者投票を含む)	682	86.4
2	投票しなかった	96	12.2
99	無回答	11	1.4
	合計	789	100.0

		【臼田・浅科・望月】	%
1	投票した(期日前・不在者投票を含む)	667	88.3
2	投票しなかった	82	10.9
99	無回答	6	0.8
	合計	755	100.0

[3] あなたは、昨年4月に行われた佐久市長選挙では、どの候補者に投票しましたか。一つ選んで○を付けてください。

【旧佐久市】		%	
1	柳田清二(現市長／無所属・新人)	458	58.0
2	木曾茂(無所属・新人)	166	21.0
3	投票しなかった	71	9.0
4	当時、有権者ではなかった	25	3.2
5	覚えていない	57	7.2
99	無回答	12	1.5
	合計	789	100.0

【臼田・浅科・望月】		%	
1	柳田清二(現市長／無所属・新人)	479	63.4
2	木曾茂(無所属・新人)	138	18.3
3	投票しなかった	47	6.2
4	当時、有権者ではなかった	21	2.8
5	覚えていない	56	7.4
99	無回答	14	1.9
	合計	755	100.0

[4] ではあなたは、佐久市長選挙の際に、総合文化会館をめぐる問題のことをどの程度重視しましたか。一つ選んで○を付けてください。

【旧佐久市】		%	
1	かなり重視した	62	7.9
2	ある程度重視した	181	22.9
3	どちらともいえない	121	15.3
4	あまり重視しなかった	171	21.7
5	全く重視しなかった	112	14.2
6	覚えていない	28	3.5
	非該当	90	11.4
99	無回答	24	3.0
	合計	789	100.0

【臼田・浅科・望月】		%	
1	かなり重視した	63	8.3
2	ある程度重視した	169	22.4
3	どちらともいえない	128	17.0
4	あまり重視しなかった	177	23.4
5	全く重視しなかった	100	13.2
6	覚えていない	27	3.6
	非該当	83	11.0
99	無回答	8	1.1
	合計	755	100.0

通常の選挙との関係性から言うと、住民投票に求められる役割の一つは、選挙の際に重要な争点として認識されていなかった政策課題について改めて住民の意思を確認することである。また、選挙の場合には候補者の人柄や経歴・業績など、政策や公約以外の側面も含めて総合的な判断によって選ばれるため、たとえ各候補者が明確な争点を掲げて選挙を戦ったとしても、個別の政策課題に対する住民意思を確認するには一定の限界があると言える。その一方で、基本的に賛否を二者択一で問う住民投票もまた、しばしば議論が単純化されがちであるため、多様な住民意思を集約する上では一定の限界があると言えるが、ただ、地域の重要課題に対して投票という形で直接意思表示を行うことができるため、普段の選挙では比較的無関心な人々も、住民投票では積極的に投票所に足を運ぶという現象がこれまでも各地で散見されてきた。このような観点から問15では、最近行われた選挙について尋ねている。

[1]～[3]ではそれぞれ、2010年8月に実施された長野県知事選、同年7月に実施された参院選、2009年4月に実施された佐久市長選について質問しているが、これらの選挙で「投票しなかった」と答えた人が、住民投票でどの程度投票に参加しているかを確認してみると、その割合は旧佐久市で3割弱～4割弱、旧町村部で約2割～3割強に上る。住民投票の投票率自体は、長野県知事選とほぼ同程度であり、参院選や市長選と比べると10～20ポイントほど低い。だが、これらの選挙を棄権した人でも住民投票には参加したという人は、決して少なくないと言える。日頃は棄権しがちな有権者の関心を喚起したという点においても、今回の住民投票は一定の成功を収めたと言えそうである。

他方、市長選について尋ねた[3]および[4]に着目すると、[3]の集計結果に関しては、現市長の柳田に投票したという回答がかなり多いが、実際の投票結果は柳田の約35,000票に対し、対立候補の木曾が獲得したのは約25,000票であったから、実際の柳田の得票率はおよそ6割となる。その数字と比べると、[3]で投票先を答えた人の中では柳田に投票した人の割合は75%前後に上り、実際の結果よりかなり高くなっている。これには主に二つの理由が考えられ、一つは、市長選で木曾に投票した一定割合の人が今回の調査に協力しようとしなかった可能性があり、もう一つは、市長選から一年半以上が経過したために有権者の記憶が薄れ、実際には木曾に投票したものの柳田に投票したと思い込んでいる人が少なからずいるという可能性である。いずれにせよ、ここでの集計結果には若干の偏りが見られるため、データの扱いにはやや注意が必要と思われる。

そのことを踏まえたうえで[4]の結果を見てみると、市長選の際には、総合文化会館をめぐる問題のことを「重視した」という人と「重視しなかった」という人が概ね半々に分かれ、市長選でいずれの候補に投票したかによってもその傾向は変わらない。実際の選挙戦では、木曾が「建設推進を明言」し、柳田が「維持負担などに疑問を示し、市民の意向を確認する必要がある」（『信濃毎日新聞』2009年4月14日）としており、両者の主張が最も異なる争点の一つであったが、有権者の多くは必ずしも重要な争点として認識していなかったようである。